

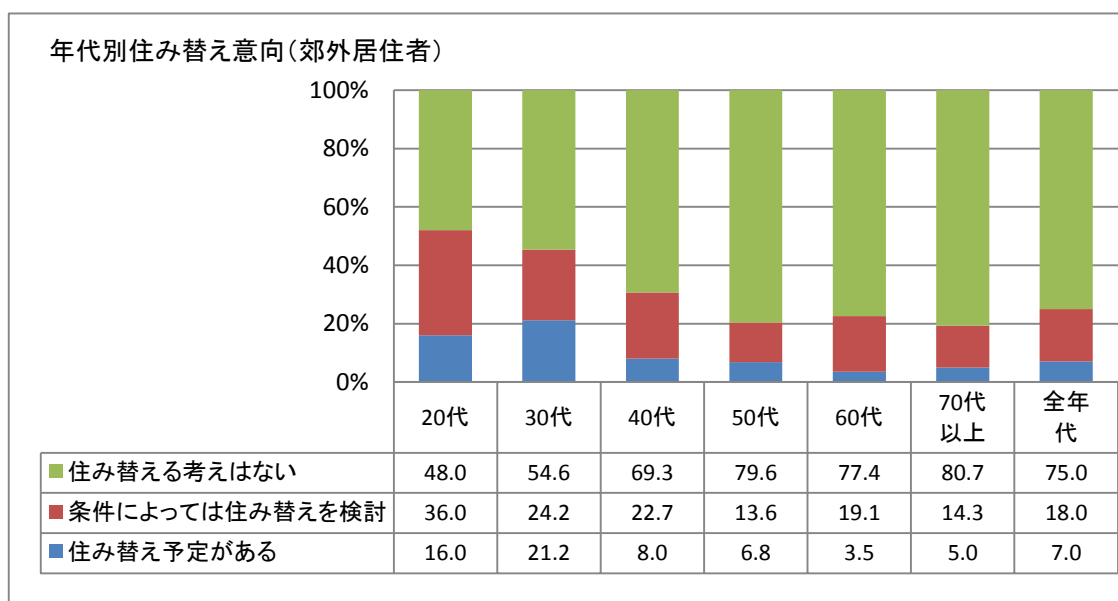
資料 2. 市民ニーズ等の把握

(1) アンケート調査結果にみる市民意向

1) まちなか居住に関する意向

①まちなかへの居住ニーズ

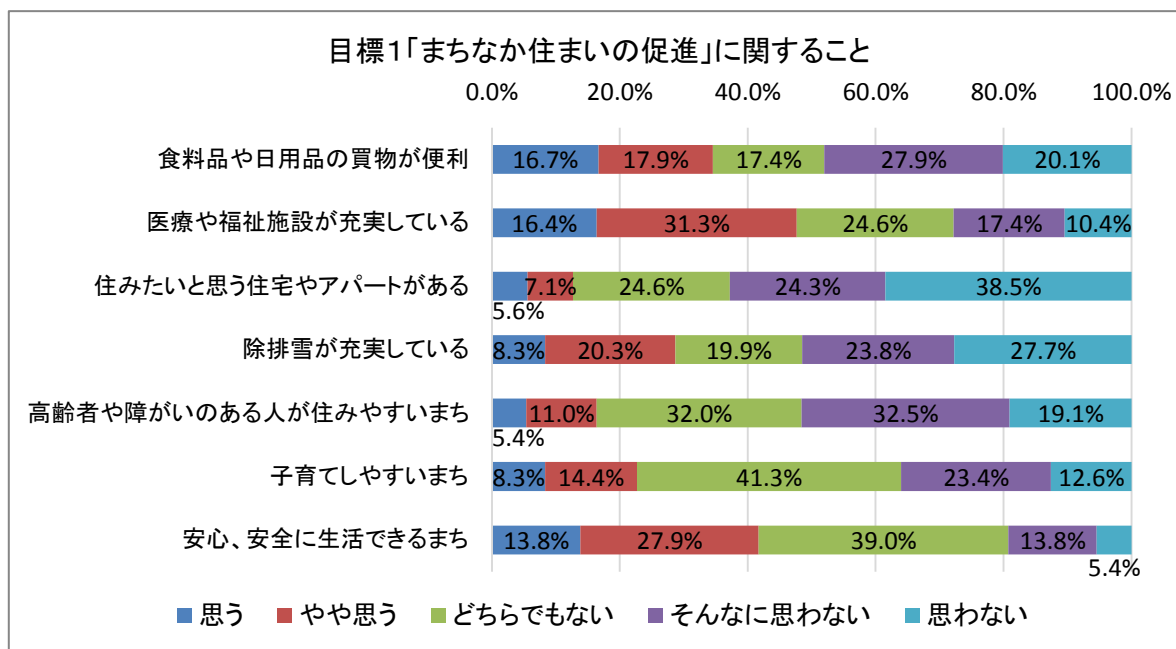
- ・平成23年度に実施した郊外居住者へのアンケート調査によりますと、「住み替え予定がある」、「条件によっては住み替えを検討」と回答した人は、全年代平均で25%と、4人に1人の人がまちなかへの住み替えを考えています。
- ・年代別にみると、20代が52%、30代も45%と若い世代において住み替えを予定または検討の可能性があるとの回答割合が高くなっています。これは、若い世代が中高年世代より持ち家率が低いことが反映している結果だと思われます。このことから、若者にとって利便性が高く、魅力あるまちなか共同住宅の供給を推進する必要があります。
- ・一方、中高年世代の人は、割合は若い世代に比較して低いものの、20～30%の人がまちなかへの住み替えを予定、または検討の可能性があるとしています。このことから、ファミリー層や高齢者等に対するまちなか住宅の提供についても、各世代のニーズに沿った共同住宅、戸建て住宅等を提供する施策展開が必要です。



■平成23年度まちなか居住に関する意向調査(郊外居住者アンケート)

②まちなか住まいに関する満足度

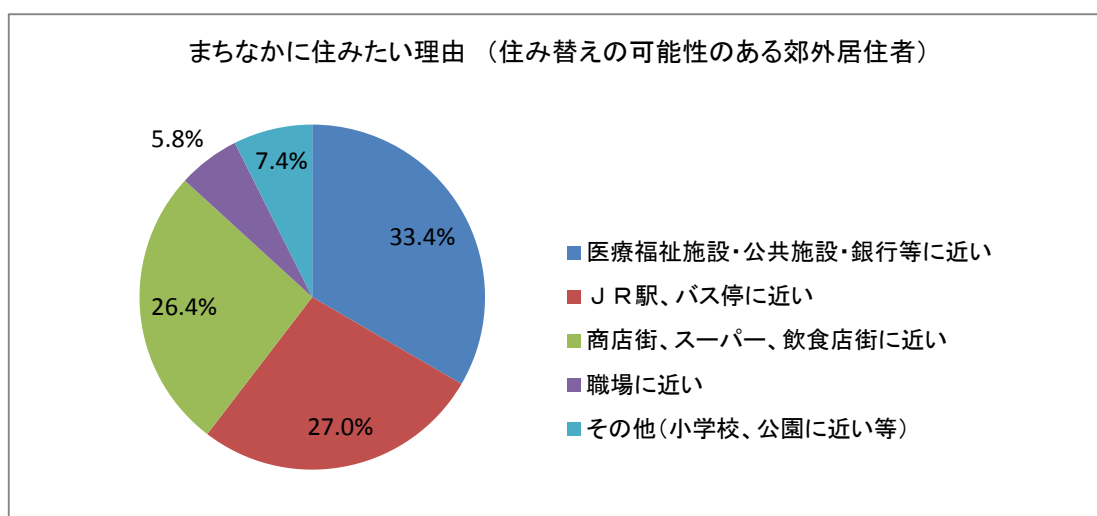
- ・平成25年度に実施した市民アンケート調査によると、「まちなか住まいの促進」に関して満足度の高い項目は、「医療・福祉の充実」(“思う”、“やや思う”で約42%)、次いで「安心、安全に生活ができる」(“思う”、“やや思う”で約35%)となっています。一方、「住みたいと思う住宅、アパート」の満足度は低く、“そんなに思わない”、“思わない”を合わせて約63%となっています。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

③まちなかに住みたい理由

- 平成23年度に実施した郊外居住者アンケート調査において、「まちなかへの住み替え予定がある」、「条件によっては住み替えを検討」と回答した人の「まちなかに住みたい理由」をみますと、「医療福祉施設・公共施設・銀行等に近い」が約33%で最も高く、次いで「JR駅、バス停に近い」、「商店街、スーパー、飲食店街に近い」などの日常生活の利便性に対する回答割合が高くなっています。このことから、まちなか居住の推進に向けては、居住施設の整備にとどまらず、暮らし環境の充実に向けた施策についても推し進めていく必要性があります。

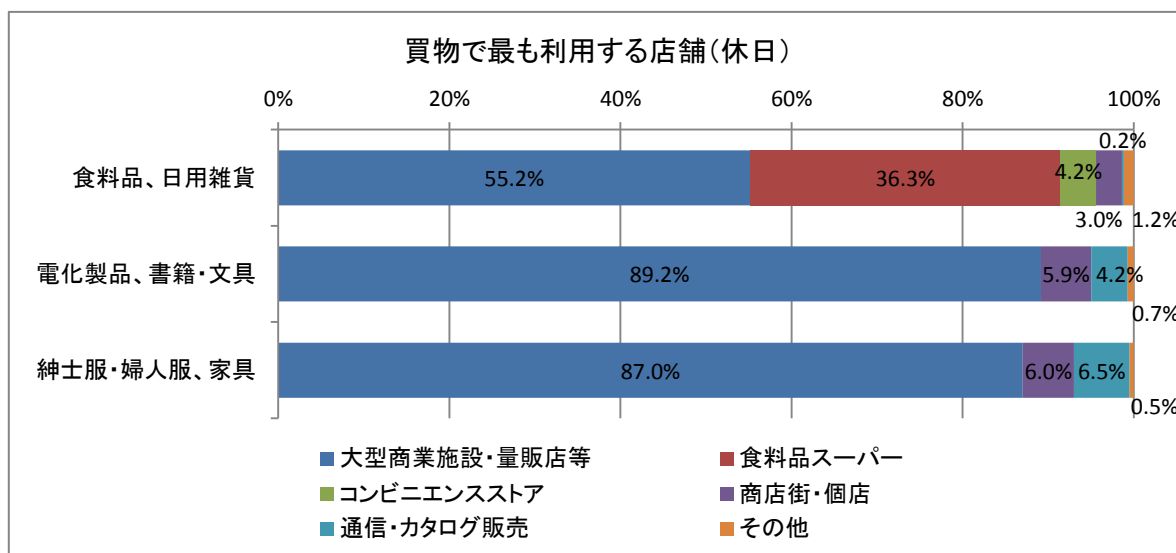
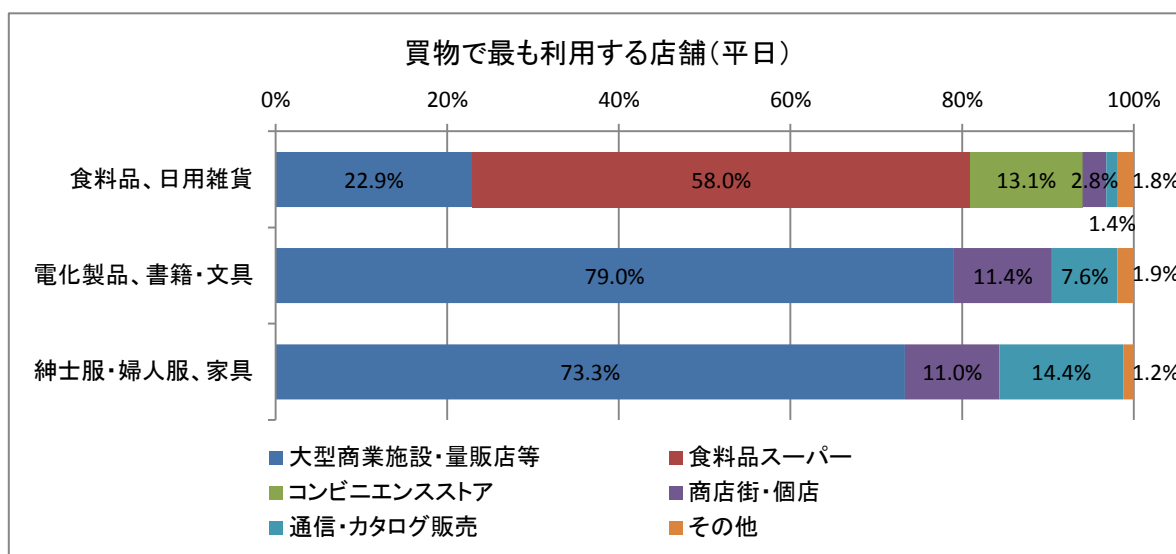


■平成23年度まちなか居住に関する意向調査（郊外居住者アンケート）

2) まちなか回遊に関する動向と意向

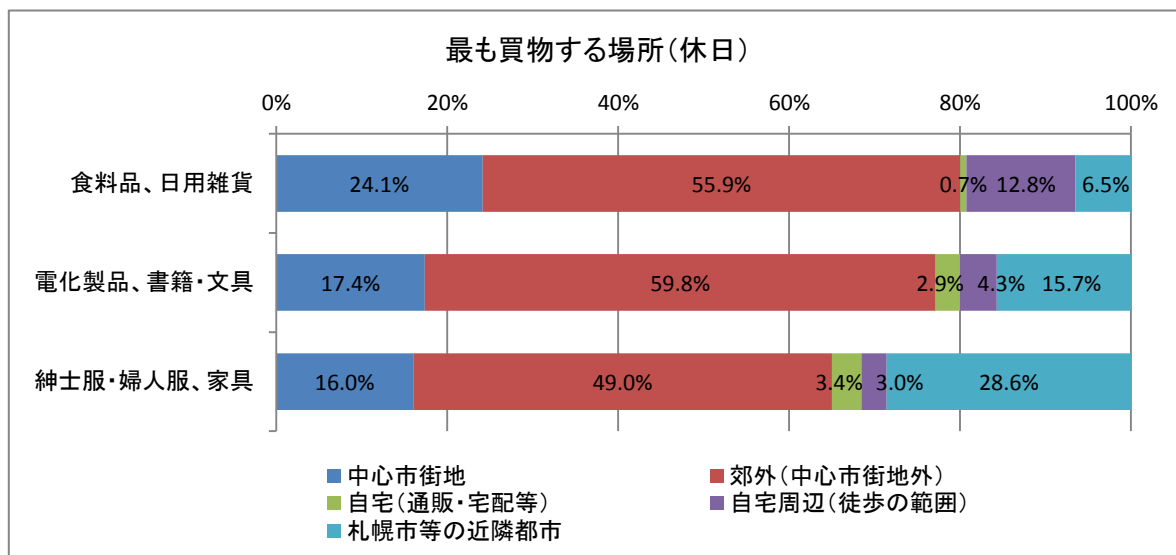
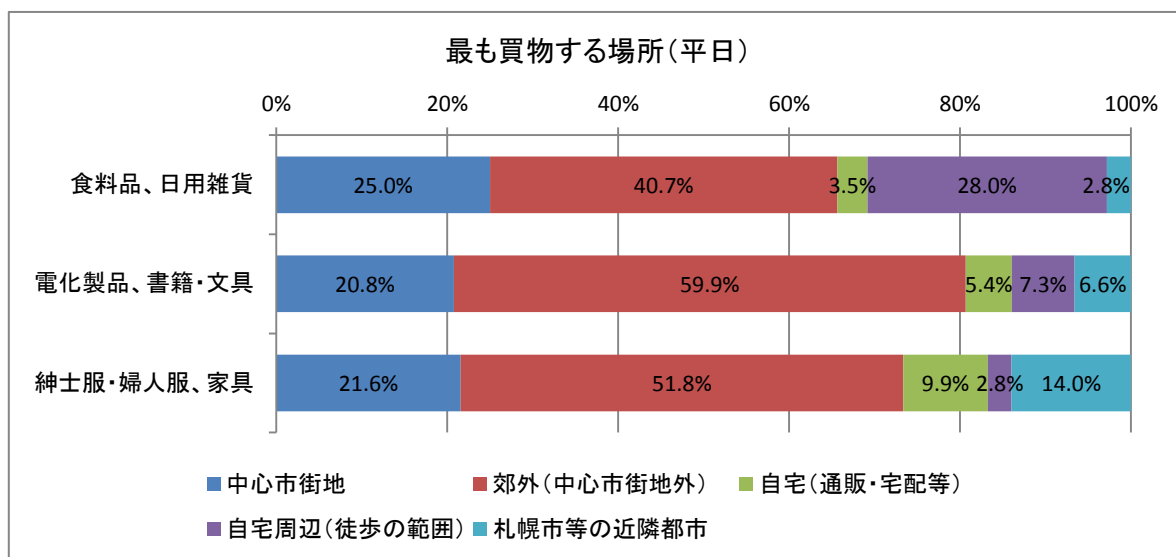
①買物動向

- 買物で最も利用する店舗は、「食料品、日用雑貨」の平日では“食料品スーパー”が約58%と最も高い割合を示し、休日には“大型商業施設、量販店等”が約56%と、“食料品スーパー”を抜いて最も高い割合となっています。「電化製品、書籍・文具」、「紳士服・婦人服、家具」の買物では、平日、休日ともに“大型商業施設、量販店等”を利用する割合が最も高く、特に休日では80%を超えています。一方、“商店街・個店”の利用割合は低く、食料品等では3%に満たない割合です。



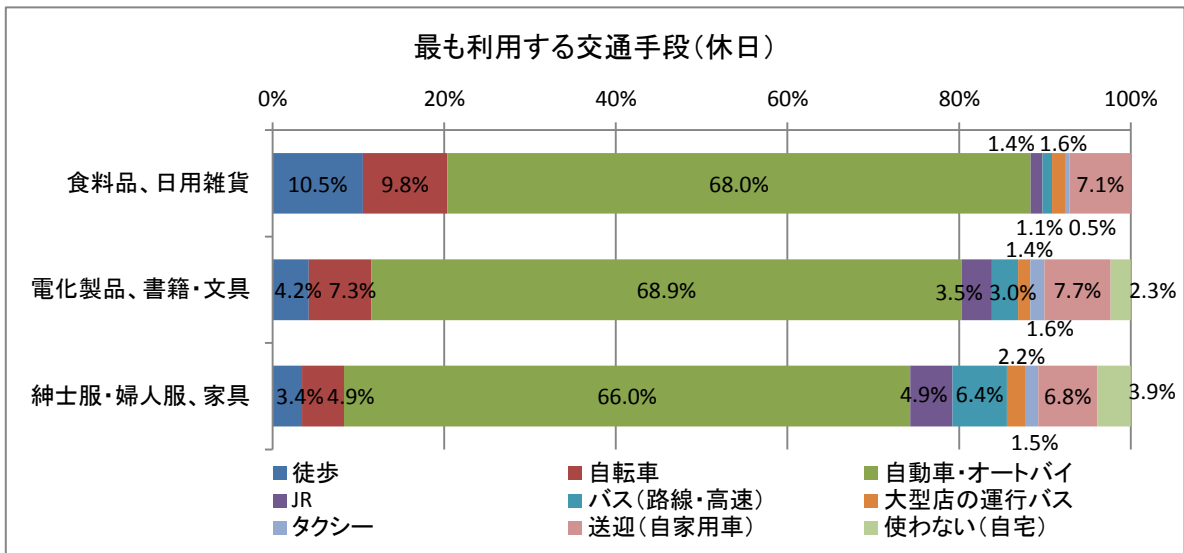
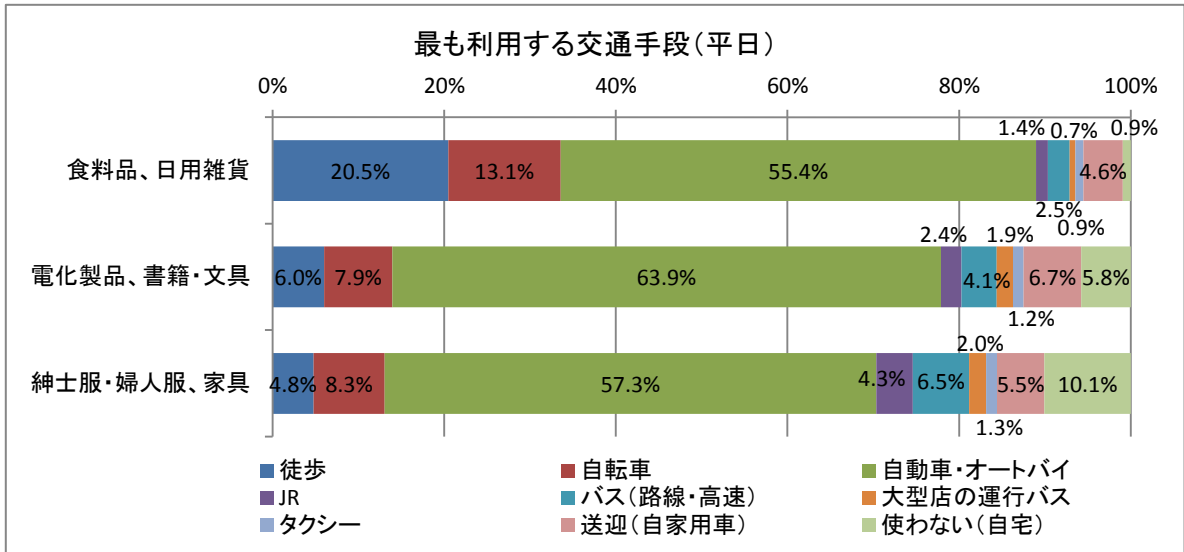
■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

- 最も買物する場所については、平日、休日ともに“郊外”での買物割合が最も高く、利用店舗の回答結果とあわせて考えると、郊外に立地する大型店舗等の吸引力が強いことがわかります。一方、“中心市街地”での買物は“郊外”より低く、最も高い割合を示した「食料品、日用雑貨」で約25%です。特徴的なこととして、食料品等では“自宅周辺”での買物が平日で28%みられ、“中心市街地”より高くなっています。また、休日に“札幌市等の近隣都市”へ出かける割合が高まり、「紳士服・婦人服、家具」では“中心市街地”の割合を約13ポイント上回っています。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

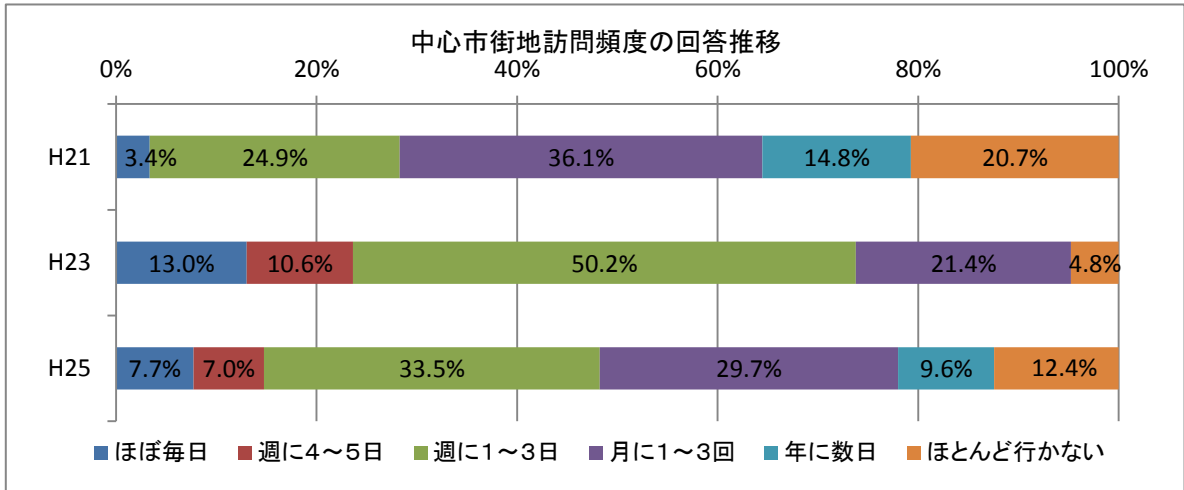
- 買物で最も利用する交通手段は、圧倒的に“自動車・オートバイ”の利用割合が高く、各商品ともに平日で55%を超え、休日には65%を超えています。「食料品、日用雑貨」は、“徒歩と自転車”の合計割合が休日で約20%、平日で約34%あり、これらは自宅周辺で買物する人の利用と思われます。一方、“バス(路線・高速)”は、平日、休日ともに利用割合が低く、数%にとどまっています。これは、バスの利便性が大きく影響しているものと思われます。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

②中心市街地への訪問頻度と目的

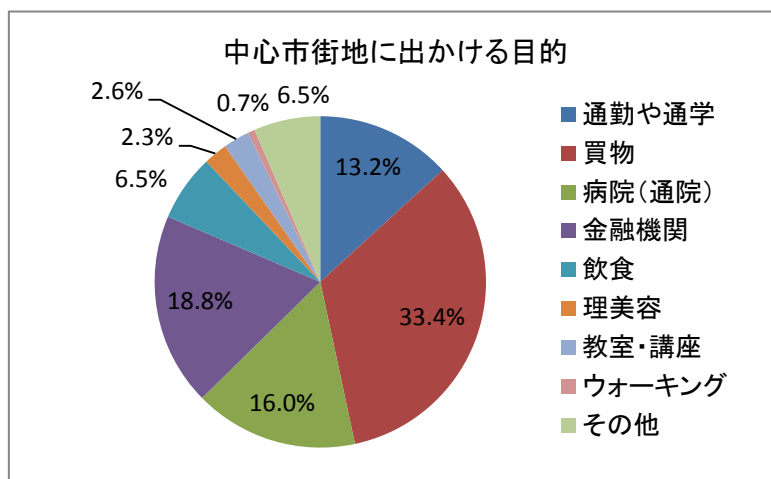
- 中心市街地に出かける頻度について、平成21年度、平成23年度及び平成25年度の市民アンケート調査結果の推移をみますと、出かける頻度の高い人の割合(“ほぼ毎日”、“週に4～5日”)は、平成21年度に3%であったものが平成23年度には20%を超えていました。しかし、平成25年度の調査では15%に減少しています。また、出かける頻度の低い人の割合(“ほとんど行かない”、“年に数日”)は、平成21年度の21%から平成23年度には5%に減少しましたが、平成25年度は再び20%を超える結果となっています。このように、平成25年度における中心市街地への買物、その他の利用で出かける頻度は、平成21年度と比較すると高いものの、平成23年度より低下しており、中心市街地の魅力向上に向けて、さらなる取り組みが必要な状況にあります。



※平成21年度の調査は、“週に4～5日”の項目がなく、平成23年度の調査では“年に数日”の項目がない。また、各年度ともに“無回答”は除外している。

- 平成21年度岩見沢市中心市街地買物動向等調査
- 平成23年度中心市街地居住環境等調査
- 平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

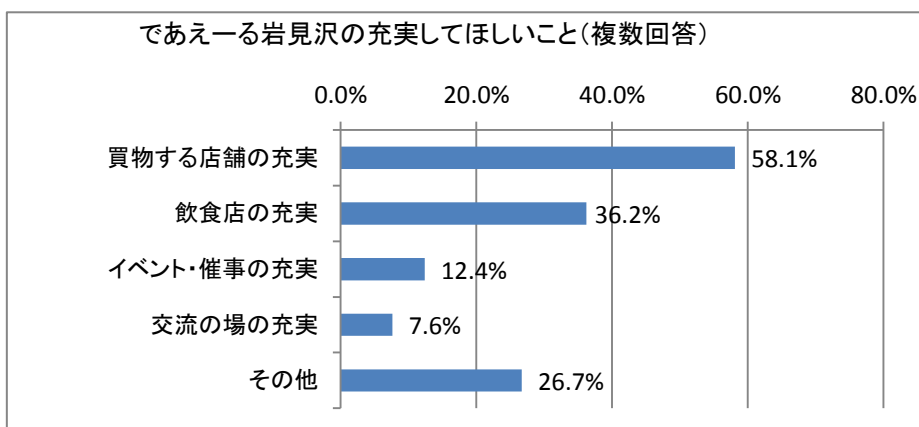
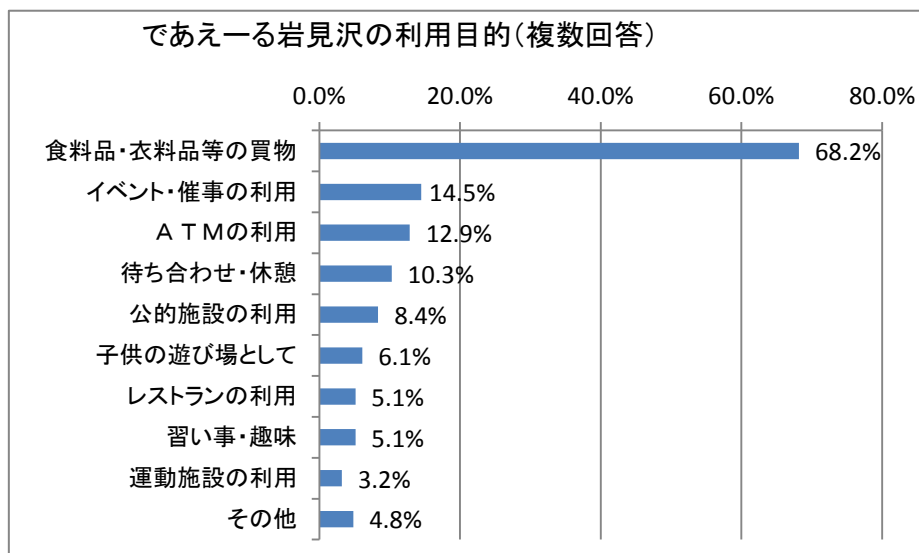
- ・中心市街地を訪問する目的は、“買物”の割合が30%以上で最も高くなっています。また、買物に関する自由意見では、“おしゃれで魅力ある店舗”や“コンビニエンスストア等の充実”などの意見が見られました。次いで、“金融機関”、“病院（通院）”、“通勤・通学”の目的が続いています。その他の項目を選択した人の内容は、サークル活動やイベント・祭り、仕事などですが、割合は6.5%にとどまっており、イベント・催事の開催に関する自由意見として、駅前通りや中心部の交流空間を活用した市民が楽しめる催し物などの拡充を期待する意見が見られました。“飲食”についても6.5%と割合は低く、自由意見ではファーストフード店やファミリーレストラン等が不足しているとの意見が寄せられました。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

③「であえーる岩見沢」の利用について

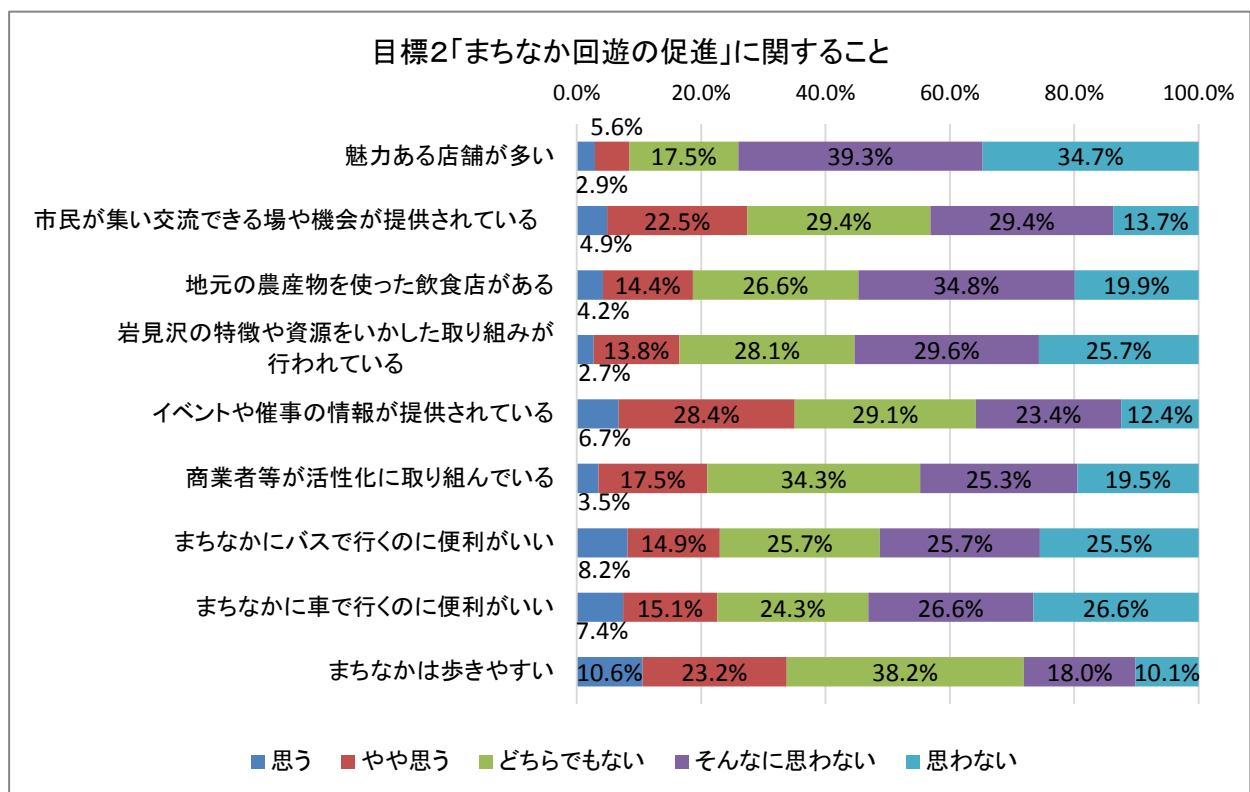
- ・平成24年にオープンした「であえーる岩見沢」の利用目的は、“食料品・衣料品等の買物”の割合が約68%と最も高く、次いで“イベント・催事の利用”となっていますが、その割合は約15%にとどまっており、“運動施設の利用”、“待ち合わせ・休憩”、“習い事・趣味”を合わせても買物目的を大きく下回っています。
- ・同施設は、中心市街地における“まちなか交流拠点”としての役割を担いオープンしましたが、現時点においてはその機能が十分発揮されているとはいえない状況です。
- ・充実してほしいことについての設問では、店舗や飲食店の充実を求める声が高いことから、これらニーズへの対応を考慮する必要があります。また、フリーマーケットや地元農産物などを活かした催し物の開催、さらに、様々なイベントの拡充など交流機能の強化、情報提供などを展開することで、中心市街地における交流空間として、その位置づけが広く認知されていくものと思われます。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

④まちなか回遊に関する満足度

- ・「まちなか回遊の促進」に関して、満足度の高い項目は、「イベントや催事の情報が提供されている」（“思う”、“やや思う”で約35％）で、次いで「まちなかは歩きやすい」（“思う”、“やや思う”で約34％）となっています。一方、満足度の低い項目は、「魅力ある店舗が多い」（“そんなに思わない”、“思わない”で約74％）、「岩見沢の特徴や資源をいかした取り組みが行われている」（“そんなに思わない”、“思わない”で約55％）となっています。全体的にみると「まちなかは歩きやすい」を除いて“そんなに思わない”、“思わない”の合計が、“思う”、“やや思う”の合計を上回っています。

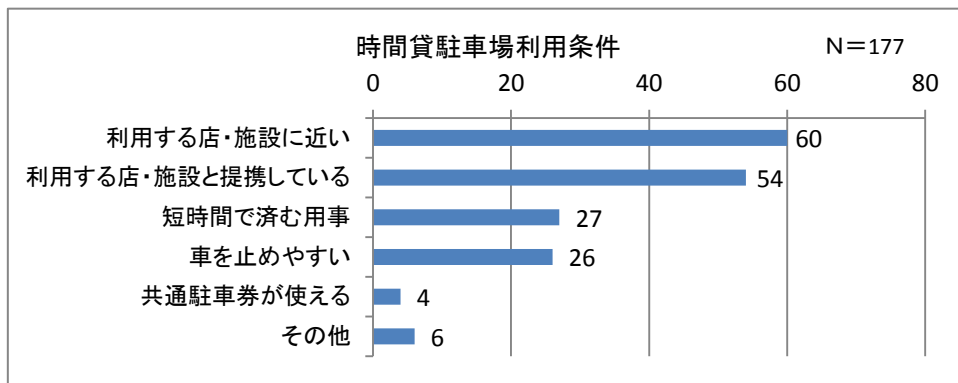
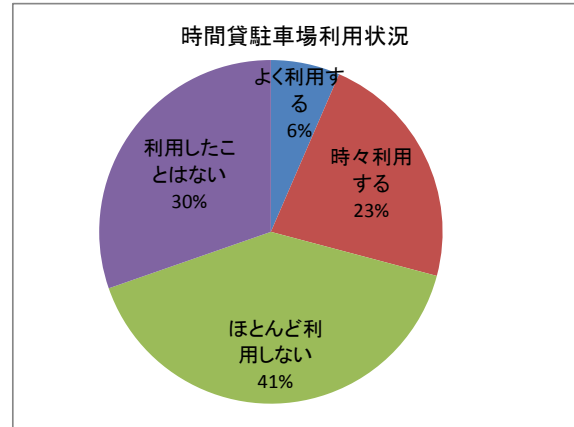
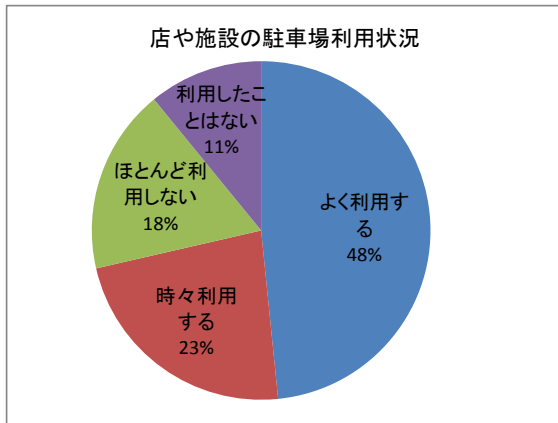


■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

⑤中心市街地への交通に関する意向

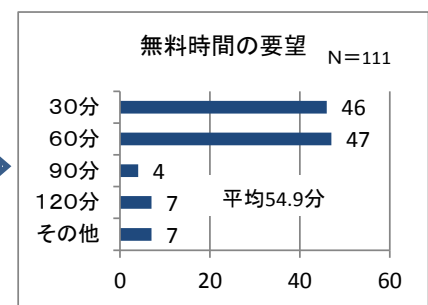
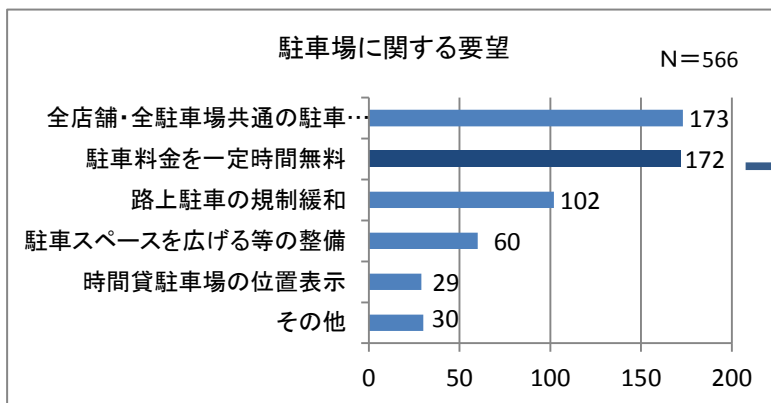
【駐車場の利用状況と意向】

- ・平成22年に実施した駐車場利用に関する調査では、中心市街地での買物等で駐車場を利用する際に、店や施設の専用駐車場は「よく利用する」が約半数近くありましたが、時間貸駐車場は6％にすぎない状況です。時間貸駐車場の利用条件としては「利用する店・施設の近く」、「店・施設と提携している」などを条件とする回答が多く見られました。



■ 中心市街地来街者アンケート (H22. 8~10)

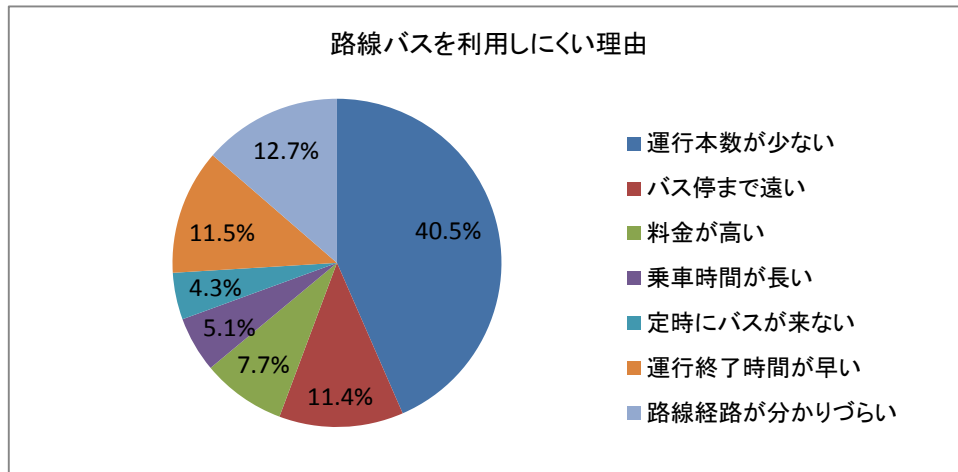
・ 駐車場に関するニーズでは、30～60分程度の駐車については「無料にする」、「全店舗共通の駐車券を発行する」など駐車料金無料化への要望のほか、短時間の路上駐車規制緩和についての要望も多く見られました。



■ 中心市街地来街者アンケート (H22. 8~10)

【路線バスを利用しにくい理由とバス交通に関する意向】

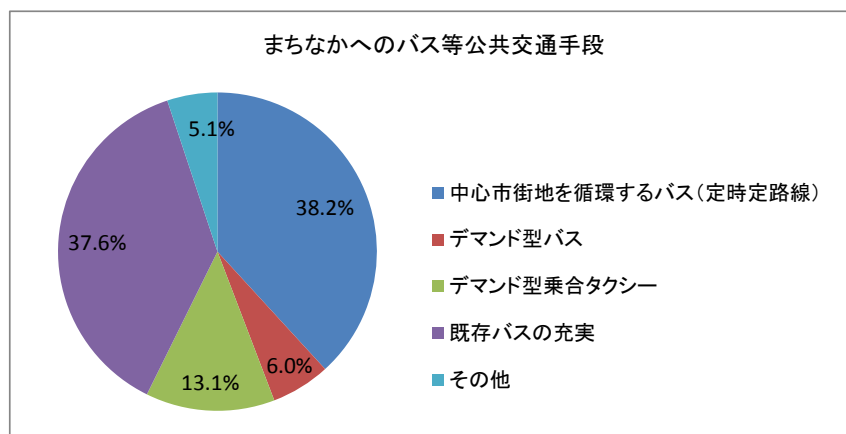
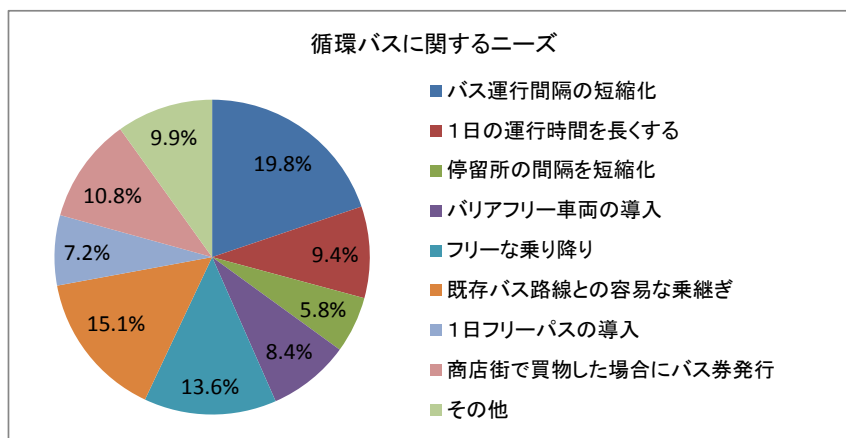
・ 平成23年度に実施した郊外居住者へのバス等公共交通に関するアンケート調査によると、路線バスを利用しにくい理由として、「バスの運行本数が少ない」が約41%と最も多く、次いで「路線経路が分かりづらい（どのバスに乗ればよいか分からない）」の約13%の順で、運行本数や路線の分かりにくさの割合が高くなっています。



■ バス等公共交通に関するアンケート (H23. 8)

- ・ 中心市街地に出かけるバス等公共交通手段としては、「デマンド型バス(※)」より、「中心市街地を循環するバス」や「既存バスの充実」のニーズが高くなっています。
- ・ 循環バスに関するニーズでは、「バスの運行間隔を短縮化」に対する要望が多く、さらに「乗り継ぎのしやすさ」、「フリー乗車区間」などサービスの充実を求める声が多くなっており、中心市街地へのバスの利便性向上を図ることが必要です。

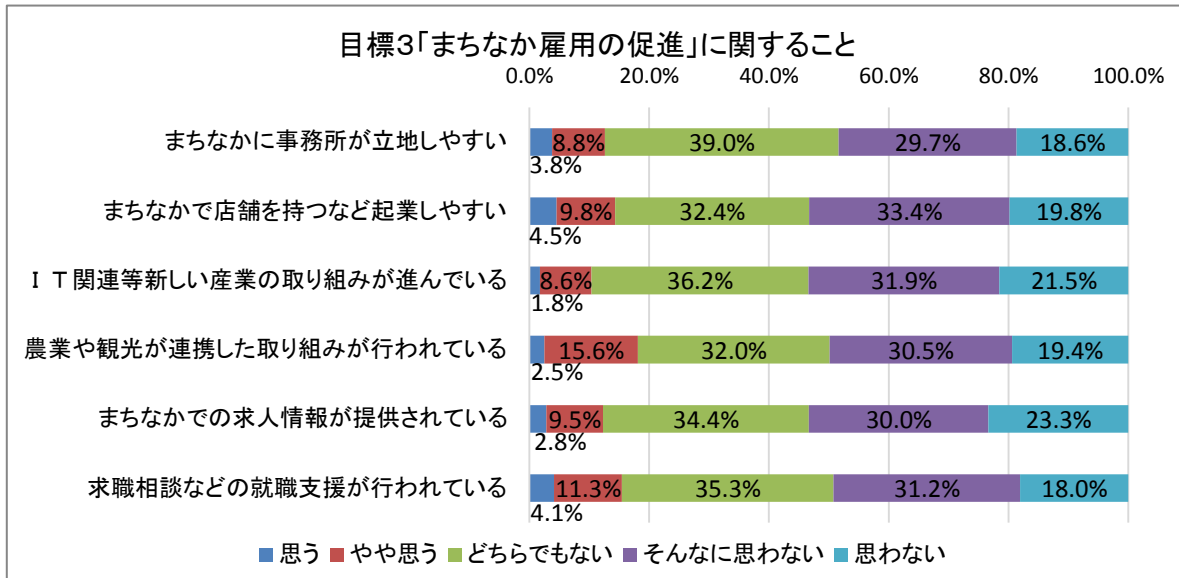
※デマンド型バス：利用者のニーズに応じた基本路線外の迂回路線経由や、希望乗降地点及び乗降時刻の要求に応じるサービス



■ バス等公共交通に関するアンケート (H23. 8)

3) まちなか雇用に関する意向

・目標3の「まちなか雇用の促進」に関して、“思う”、“やや思う”の合計割合は、最も高い割合である「農業や観光が連携した取り組みが行われている」でも、約18%にすぎません。また、全ての項目において、“そんなに思わない”、“思わない”が“思う”、“やや思う”を上回っており、全体的に満足度は低くなっています。



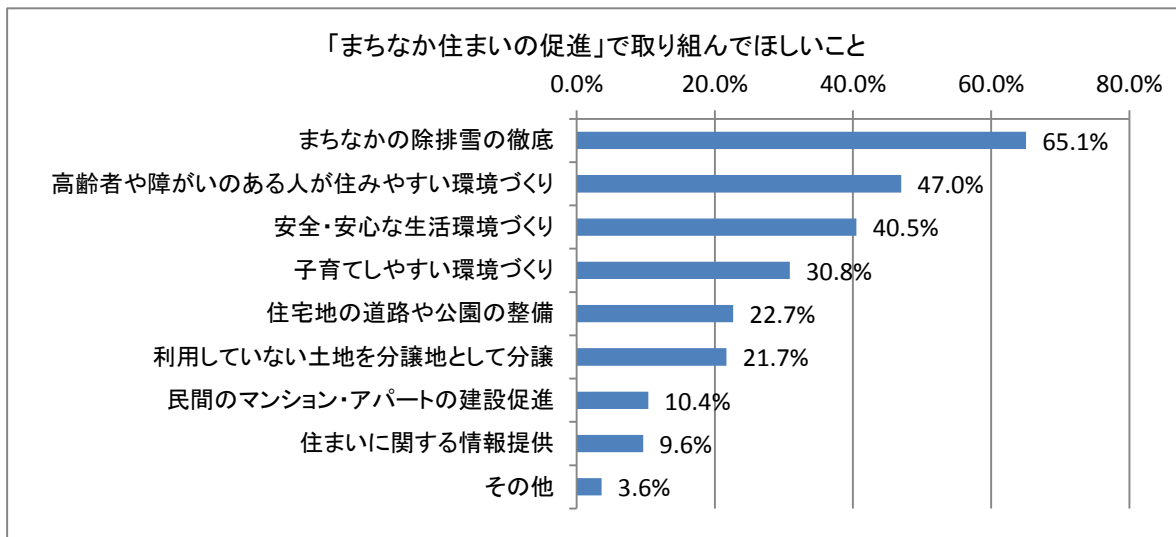
■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

4) 中心市街地活性化に向けた取り組み要望

平成25年度の市民アンケート調査では、中心市街地活性化で取り組んでほしいことを目標別に3つまで選んでもらっています。

①まちなか住まいの促進で取り組んでほしいこと

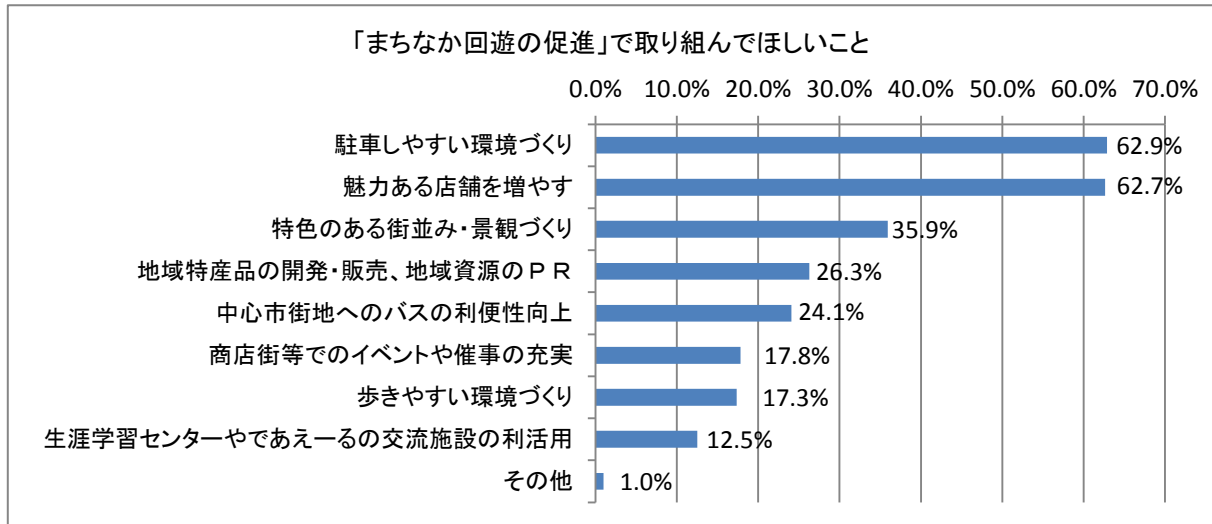
まちなか居住で取り組んでほしいことは、「除排雪の徹底」が最も高く65%を超え、関心が高くなっています。次いで、「高齢者や障がいのある人が住みやすい環境づくり」、「安全・安心な生活環境づくり」となっています。これらは生活サービスの充実や高齢者等暮らしやすいまちづくりのニーズを反映しているとともに、加えて「まちなか住まいを促進する」取り組みの中で満足度が低いことが反映されています。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

②まちなか回遊の促進で取り組んでほしいこと

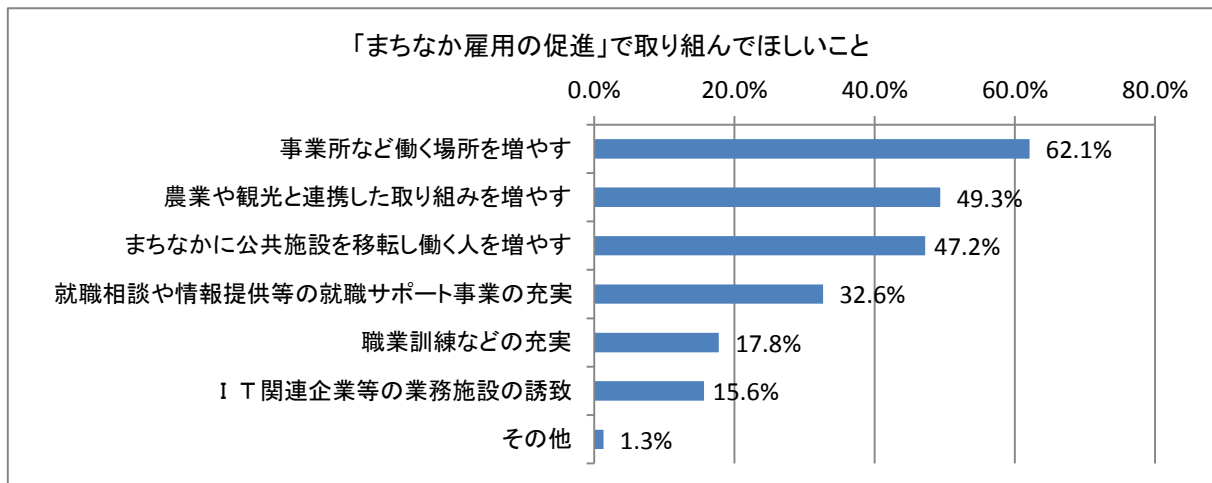
まちなか回遊で取り組んでほしいことについては、「駐車しやすい環境づくり」、「魅力ある店舗を増やす」のニーズが高く、これらに対する不満がまちなかの吸引力を低めている要因ともなっています。「駐車しやすい環境づくり」に関しては、買物交通手段として自動車利用が多いことも、ニーズが高い要因となっているものと思われます。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

③まちなか雇用の促進で取り組んでほしいこと

まちなか雇用で取り組んでほしいことは、「事業所など働く場所を増やす」のニーズが高く、次いで「農業や観光と連携した取り組みを増やす」といった岩見沢の資源をいかした多様な産業活動の活性化や、公共施設の中心市街地への移転などにより雇用を創出し、従業者数が増加することを期待しています。



■平成25年度中心市街地活性化に関するアンケート調査

(2) 市民提案、活性化協議会・市商連からの提案

1) 市民提案・意見

今年度、本市では市民に対して「中心市街地活性化に対する提案・意見の募集」を行いました。また、市民アンケート調査の中でも「自由意見」として、市民から多くの声が寄せられました。その主な内容は次のようなものです。

○農業と連携したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業にポイントを絞ったイベントや産業活性化の実施 ・ 地産地消の充実とアピール ・ 本市の農作物や加工品をアピールする施設の整備
○子育て世代やファミリー層に対する施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世代をターゲットにした店舗整備（託児サービス、絵本専門店、木育玩具店等） ・ 子育て中の女性が働ける職場の充実（コールセンター、菓子・パン製造等） ・ ファミリー層がまちなかで過ごせる店舗や施設づくり（子どもの遊び場等） ・ 若いファミリー層を定住させる施策展開（ものづくりや昔遊びなどのイベント開催等） ・ 気軽に声を掛け合い町全体で子どもを見守るまちづくり
○高齢者に対する施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者向け住宅の供給（安価に抑えて） ・ 独り暮らしのお年寄りや夫婦のみ世帯が住みやすいまちづくり ・ 買い物難民を増やさない施策展開（まちなか商店街へ最寄品を扱う店舗を増やす） ・ 駅を中心に介護施設、デイサービス、居住施設を整備
○若者に対する施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が集まり、楽しめる施設・店舗の整備（ファーストフード店等） ・ 若者が安心して働ける場を充実 ・ 若い事業主を増やして若い世代の声を取り入れる
○都市機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所の移転（既存施設を含めて分散型に） ・ まちなかへの市立病院のサテライトを設置（本院とサテライト間のシャトルバス運行） ・ 公共施設の集約化 ・ まちなかで全ての用事が徒歩で完結する ・ 豪雪地としての雪処理・活用（融雪溝、雪冷房）、融水施設の整備 ・ 駅前に人を集めるまちづくり
○まちの賑わい形成と魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画館、新たな大型商業施設などを誘致 ・ 農業高校との連携（まちなかの植栽） ・ 4条通りをメインとしたまちづくり、商店街の店舗を集約化（近接させる） ・ 高齢者から子どもまで幅広い年齢層が楽しめる商店街づくり ・ 昼ばかりではなく夜にも人を集める ・ 駅の複合施設などを利用した絵画等の展示 ・ 駅前通りの歩道空間に休憩や語らい、飲食ができる場所を設置 ・ 楽しいショッピングにはアーケードは必要

○イベントの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しめる参加型のイベント開催 ・イベントの目的、祭りの核心を考える ・歩行者天国等により駅前に人の流れをつくる ・駅前通りの整備終了時に記念マラソン大会を開催
○都市基盤（道路・公園等）の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の拡幅・再整備（4条通り、1条通り、西6丁目通り） ・岩見沢駅周辺の鉄道高架化 ・廃墟の取り壊し跡に小公園を整備
○生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・歩きやすく安心できる歩道の整備 ・冬の除排雪対策を根本的に考え直す ・JR通勤・通学者が買物できる店舗（スーパー）の設置
○まちの景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎をシンボリックなものとするため建物の高さを抑える ・市民や商店街の参加により植栽がなされた魅力あるメインロードづくり ・建築物の色指定による特色ある街並み形成
○土地の有効活用・高度利用	<ul style="list-style-type: none"> ・駅北地区を住宅地として見直す ・利便性の高い地区は高度利用の地区指定により建築規制する ・土地区画整理事業等により400%の容積率を有効活用 ・札幌への通勤者向けに家庭菜園付駅直結マンションを建設
○交通アクセスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・買物無料バスの運行 ・お年寄りに優しい交通が便利となる運用を図る ・JR駅とバスターミナルの距離が離れているので降停車場を変更する
○情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい店や素敵な店の情報発信 ・イベント等の情報発信の工夫（イベント等を1枚の紙に印刷） ・地元特産品やギフト品を安価で、高齢者にもわかりやすくネットで紹介
○事業者との共同・民間事業者の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・市民要望の高い店舗や施設の誘致、既存郊外店のまちなか移転の打診 ・市と事業者の協力により岩見沢の魅力をPR（イベント等）
○コミュニティの形成・人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを利用した新たな地域コミュニティの形成 ・人の幸せのために心の動かすことのできる人づくりを大切にする
○その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の人立ち寄りしたいと思い、市民も楽しめる場所をつくる

※市民提案・意見：5名、20件

市民アンケート調査自由意見：約150件

2) 中心市街地活性化協議会からの提案

中心市街地活性化協議会では、計画に盛り込む事業を検討するため、専門部会を平成25年4月から5回開催し、その協議内容を運営委員会、協議会にかけて整理集約した結果、次の33件を提案しています。

I. まちへ行く動機づけと魅力の創造

1. 岩見沢はまちの特性、主要産業、経済的活力から将来的な可能性を考えると「農業」、「米」などを中心とした農業ワールドとしてのまちのイメージに特化する。また、全道からも岩見沢のまちなかに人を引き付けるようにする戦略的プランニングの構築が必要。

- ①農業やバイオなど農業技術産業及び研究機関、教育機関の誘致
- ②テント形式のイベント広場の設置（春から秋の週末に農産物直売所と学生レストランを常設、ミニコンサート、大道芸などを実施、冬はテントをしまい太陽光などによる融雪機能を備えた排雪スペース）
- ③農業（お米など）をテーマにしたイベントの実施（米をテーマとした美味しいおにぎりコンテスト、ご飯に合うおやじB級グルメコンテスト）

2. 買い物やまち歩きをし易くするための機能強化

- ①まちなかイベントや買物・宿泊情報などのインフォメーション機能の構築強化（中心市街地の発信拠点）
- ②主要拠点に案内板設置及び通りの名称をわかりやすい表示とし、そのゾーンを特徴づけるような親しみやすいネーミングとする

3. 空知の中核都市としてインフラや病院、銀行、公的機関が集中しているまちの特性を伸ばすため、より行政サービス機関を集中させる

- ①市役所の移転・建て替え（1階に物販、2階以上を市役所）
- ②合同庁舎の移転・建て替え（公共職業安定所、労働基準監督署、年金事務所、税務署）
- ③既存医療機関の病院とのネットワークを基本に、この地区に医療・福祉ゾーンを構築（医療・福祉サービス事業所の誘致・集約）

4. 子育て世代・若者のための施設建設や施策展開

- ①子育て世代・若者向けの施設整備（メディア館など若者が利用する機能）
- ②通年で利用できる全天候型の屋内公園施設（各年齢に合わせた木製遊具を配置し、一年を通して家族が楽しめる施設）
- ③子ども・高齢者向けの「ハーフサイズランチ」を提供できる、シニア世代の健康にも配慮したコミュニティレストランを設置（NPOや就労支援事務所が運営）

II. 空き地・未利用地の利活用促進

- ①空き地を利用したミニ公園（フットサル、3オン3などスポーツのできる場所）
- ②地権者・空き店舗利用者・取得者に対するさらなる支援措置による不動産の流動化促進
- ③空き地・空き店舗情報の集約と利用取得希望者のマッチング強化
- ④空き店舗を活用したコミュニティビジネスの創業支援

Ⅲ. 3世代でまちに暮らす仕組み、遊びコミュニケーション機能の充実

1. 多世代のコミュニティ機能充実

- ①設置したコミュニティレストランを多世代の交流の場として活用（地域文化の拠点：各種サークルの発表会、小劇場）
- ②であえーる岩見沢の地下に一年を通じてファミリーで運動ができる環境を整備（パークゴルフ場など）

2. 3世代でまちに暮らす仕組みづくり、世代間交流の促進

- ①中心市街地に経済活力を生み出す30～40代の子育て世代に対して、居住促進への税金などの優遇措置制度の創設
- ②生活便利施設の整備（保育施設、サービス付き高齢者向け住宅、老人保健施設等の立地誘導）
- ③安心安全のための防犯灯・適切な街灯の設置（アーケードの撤去、空き地や空き家が増え夜間など防犯上危険を感じるようになってきていることの解消）
- ④中心市街地で実施している除雪の仕組みを周辺住宅地域まで拡大し、まちなかへの交通アクセスの改善

Ⅳ. 人材育成と確保

- ①権利者間の調整、空き店舗・未利用地のマッチング、まちのプランニング・ゾーニングなどを担う統括する人材の確保

Ⅴ. 地域の一体的な活動

1. 通りの戦略的整備

- ①拡幅する駅前通りなどにオーニング（日よけ、雨覆い）を設置
- ②ポケットパークなど休憩スペース、ミニ公園の設置し、夏は市民の憩いの場、冬は地区の雪捨て場として活用する
- ③ギャラリーの設置
- ④緑の通りの造成（休憩スペース、ミニ公園、ギャラリーなど緑の通り、スペースを確保、夏は市民の憩いの場、冬は地区の雪捨て場）

2. 商店街の一体的な活動

- ①中心市街地の商店街が、一体的な取り組みを行う。例えば、サービスチケット、地域通貨、地域のコミュニティ活動を商店が共同で実施

Ⅵ. 交通

- ①法律や経済など専門的な検討が必要であることから、中心市街地交通対策PTを設置
- ②バスの小型化、より利用しやすいバス路線の見直し
- ③止めやすく安価な駐車スペース、世代別の駐車割引
- ④利用時間を設定した路上駐車帯の設置
- ⑤高齢化が進む中、自家用車を持たない高齢者にも配慮した適切な交通ネットワークの形成

VII. 中心市街地の職場環境整備

①中心市街地への企業の誘致による雇用の拡大・確保

3) 岩見沢市商店街振興組合連合会からの提案

岩見沢市商店街振興組合連合会では、中心市街地の活性化に向け中活検討委員会を設置し、協議により次の提案をとりまとめました。

【提案】

- ①豪雪地帯に対応した防雪、融雪、排雪施設（次世代アーケードなど）の整備
- ②歩道の整備
- ③大型の平地駐車場整備（空き地の集約）

【理由】

高齢者に配慮したまちづくりという視点が最も大切であり、住環境と買い物しやすい環境の整備が必要である。特に降雪時では、雪に埋もれ滑りやすい歩道の状況が買物の障壁となっており、これを取り除くために、口の字回廊への防雪、融雪、排雪施設の整備や歩道のバリアフリー化などを進める必要がある。

また、口の字回廊周辺には、立体駐車場及び小規模な平地駐車場はあるものの、市民ニーズに対応した大型の平地駐車場がないため、中心市街地の空き地を集約して整備することが求められている。

(3) 本計画原案に対する市民からの意見

1) 意見の募集方法

次のように、岩見沢市まちなか活性化計画（原案）に対する市民意見を募集しました。

- ・意見募集期間：平成26年2月7日（金）～3月7日（金）
- ・原案の公表方法
 - ①岩見沢市のホームページで公表
 - ②市役所中心市街地活性化推進室、情報公開コーナーにて閲覧
 - ③市広報3月号に計画原案の概要を掲載
- ・意見の提出方法：住所、氏名を明記してもらい、電子メール、ファクシミリ、書面提出（直接又は郵送による）のいずれかの方法で提出

2) 提出された意見の概要

原案に対する意見として、6名の方から提出がありました。その概要は、次のようになっています。

○区域が広すぎる～狭めた範囲に投資を集中させることが必要

- ・東端は中央通、南端は7条通付近まで縮小する。
- ・縮小した範囲から外れる公共施設は、将来的な移転計画を立てる。

○西6丁目以西にも口の字回廊と同様に何らかの重点区域を設定し（駅前通+4条通+西8丁目通+1条通）、再開発や区画整理等を促進する。例えば、郊外の公共施設の移転先、公営住宅の建設地とする。

○旧中心市街地活性化基本計画で言及していた土地の高度利用の改善策が盛り込まれていない。

- ・中心市街地再生補助金による建設費助成において、高度利用に関連した要件を厳しくし、その代わりに限度額を大幅に引き上げてはどうか。
- ・高度利用のメリット（土地の取得費用が少なくて済む、より多くの入居者を募れる、など）を享受できる制度作りが必要。

○無計画に住宅を建てては逆効果である。

- ・統一感が無く、景観上問題のある市街地になる。
- ・住宅が商店街を侵食して店舗の比率が下がると回遊が減り、市外への顧客流出を加速させる。

○1階に店舗、2階以上を住居という建物利用は、1条・4条・駅前・栄通など主要道路沿いに最適な形態なので、主要道路沿いへの建設を推進する。

一方、駅前通や4条通といった主要な道路から外れている地区は、住宅のみのマンションに好立地。

○点在した店舗の移転促進～どこに何の店があるか分かりづらい点を改善する。

- ・小売店など日中を中心に営業する店は1条・4条・駅前・栄通などの主要道路沿いに。
- ・バーや居酒屋など夜間を中心に営業する店はレンガ通り十字街に。

○市立病院とバスターミナルまたは中心市街地間の有料シャトルバスを運行する。

- ・高齢者の行動パターンを維持する（銀行→通院→買い物→帰宅）。

- ・市立病院の混雑を緩和するために、市立病院のサテライトを作っては。
- 図書館を中心市街地へ。まちなかに職場をつくるため、市役所を移転する。
- 中心市街地内マンションの建設
- 廃墟となっている市営住宅を撤去する。
- 市民アンケートでは中心市街地に望む施設にデパートや映画館が上位に入っており、計画に具体的な誘致計画を盛り込む。
- 宿泊施設整備事業が完了したが、岩見沢は元々宿泊施設が不足傾向にあるので、今後も新たな事業者を募り 2 軒目、3 軒目と整備をさらに続けた方が良い。
- 駅前通だけでなく、4 条通、1 条通、西 6 丁目通なども早急な拡幅・再整備を。
 - これらの通りはバス通りであるため、単なる景観整備だけでなく豪雪時の遅延・運休の緩和にも繋がる。それ以外も全ての道路に将来的な拡幅目標を設定し、用地確保のためのセットバックを条例等で義務化しては。
- 街灯の増設などで街並みの暗さを改善
- ぼらの街推進について、栗沢駅前通のような大型の固定式花壇にするともっと目立ちやすくなる。
- 当初の計画が取り止めになった 1・6 地区再開発事業は、駅とバスターミナルが目前の一等地なので市主導で継続する。立地が良いので大型商業施設の誘致に計画を変更する。
- 信号が多くて歩きにくい（街中）
- 休日になると一斉に休業する商店街となっているが、同じ系統の業種の店同士で休業日を調整しては。
- 芸術系大学があるので、世界に通用する芸術の街を作る。
- 絵画ホールの充実
- 通勤は原則バスとして、自家用車は使用しない。そうすることで、バスの運行本数を今後も確保する。
 - ・路線バスの利便性向上のため、学校や企業に対する定期券購入費の助成など、利便性以外の面で乗車を促す事から始めては。
 - また、郊外から遠回りして中心市街地に入る路線を積極的に統廃合する（郊外→バスターミナル→郊外といった経路にする事で、遠回りして寄る場所と中心市街地の通過する順番を入れ替える）。
 - ・バス停への広告スペース付き上屋を設置する。
- 住宅地と中心市街地を結ぶ無料バスを走らせる。
- 利用しやすい駐車場のあり方として、中小の駐車場を大型コインパーキングに集約し、周辺一帯の共同駐車場として使用する。地下・立体・屋上駐車場など、限られた土地でも多くの駐車台数を確保できる方式が望ましい。
- 地域産業の活力を生み出す環境づくりで地域を支える人材育成の促進とあるが職業訓練を行った方が良い。
- 駅周辺の空き物件については市民から活用方法のアンケート調査を行い、企業誘致を進め、IT関係で地域産業の活力を生み出していくのがいいと思う。
- 商店街にやる気があるのか。後継者はどのくらいあるのかなどの実態調査が必要。
- 補助金を使うのは、当面駅前通りだけに絞る。
- 戸数があまりにも少ないアパートに、補助金を出す意義が見えない。
- 夢ばかりで、具体性が見えない。市民や民間が期待が持て、分かりやすい内容とすべき。